2008 Annual Congress "Tokyo"

2008年年次学会(東京)

日時：平成20年 7月19日(土) 11：00～21：00
7月20日(日) 9：00～21：00

会場：椿 山 荘
〒112-8680 東京都文京区関口 2-10-8
☎03(3943)1111(代表)

Japan Small Animal Veterinary Association

椿山荘・庭園

椿山荘・庭園(夜景)

主 催：日本小動物獣医師会
後 援：文部科学省
(社)日本獣医師会
関東地区獣医師会連合会
(社)東京都獣医師会
(社)日本動物病院福祉協会
(特)野生動物救護獣医師協会
東京都小動物獣医師会

ホリスティック医療における猫のペインコントロール

Controlling Pain With Holistic Medicine among Cats

白岩　千鶴子
ひだまり猫の病院

ホリスティック医療とはなんでしょう。
それは人間や動物をまるごと診る医療です。
動物全体をみず、血液検査や尿検査などの検査結果、臓器、組織、細胞などの構成要素に重点をおく西洋医学に対して警鐘をならす意味合いから生まれた概念で、身体、精神、霊性すべてを診ます。
そして、本来備わっている「自然治癒力」を活性化することを治療の大前提としています。
猫の痛みに焦点をあて、痛みをどう捉え、どのような治療を選択し、ケアしていくかを考えてみましょう。

それではまず自分自身（人間）が痛みを感じたとき、どのような反応をし、治療を選択するのでしょうか。
考えてみましょう。

　たとえば転んで、膝小僧から血が出てしまったとする。
ほっとく人、薬を塗り、バンドエイドを貼る人、たいした傷でないのに泣いて、泣いて、歩けなくなる人、傷の程度は同じでも、反応は人それぞれ。

転んでしまったシチュエーションで精神的な痛みもいろいろでしょう。
たとえば部屋に一人でいるときに転んだら平気でも、
大勢の前で転んだら、恥ずかしいし、トラウマにもなりそう。

それが猫だったらどうでしょうか。
跛行を呈している猫は痛いと感じているだろうが、
跛行が認められない猫のすべては足を痛いと感じていないのか？
NO！
痛みがなくなれば、トラウマもなくなるのでしょうか。
NO！
トラウマを持ち続ける猫もいれば、トラウマにさえならない猫まで様々！

痛みのサインを表面的に捉えるのではなく、もっと深く、多角的に見つけてみましょう。
そのサインは猫によって違うため、どう見極め、どうサポートできるかを考え直す必要があると思います。

それでは痛みを感じる猫に、どのような治療を選択すればよいのでしょうか？
非ステロイド系抗炎症薬により合併症をおこす可能性のある猫に、その薬のみを投薬して良いのでしょうか。
YES！？
もし、その薬しか痛みを制御する方法がないとなれば、
制御されない痛みを動物が我慢し続けるのは、倫理上に問題があるだけでなく、
治癒過程を遅らせてしまう。

でも、もし身体に負担なく痛みを軽減出来るのならば、それを選択したいものです。

身体に負担をかける治療で100%痛みをとることを目標せず、
100%痛みをとることは出来ないかもしれないけれども、
身体に負担なく痛みを軽減し、QOLをあげる方法を考えてみましょう。

西洋医療以外の治療法は鍼灸、漢方薬、マッサージ、ホメオパシー、ホモトキシコロジー、フラワーエッセンス、メディカルアロマ、カイロプラクティック、サプリメントなど数多くあります。

当院には機嫌が悪くなると来院する猫がいます。
大抵は気圧が下がった時や季節の変わりめで、鍼灸治療を受けると、機嫌が良くなるといいます。
身体に薬を入れることなく、具合が良くなるのは理想です。

また、来院するのがストレスであったり、大変な猫にはサプリメントを使用します。
１種類だけの治療でなんとかしようとはせず、必要に応じて様々な治療法を組み合わせ、
痛みのレベルが無理なく少しでも下がる手助けが出来ればと思っています。

それでは骨折した猫の治療は？
もちろん、手術で骨折を整復する必要があります。
西洋医療は悪者で、身体に優しい自然療法は万全ということではありません。
漢方薬は身体に優しい、害がないと思っている人が多いですが、副作用が出てしまうこともあります。
何がこの子にとって必要な治療なのかをよく考え、副作用を考慮したうえで、
西洋医療、ホリスティック医療、もしくは両方を的確に選択し、使っていく必要があると思います。

ホリスティック医療についてはまだまだ勉強を始めたばかりなので、初歩的な話しか出来ませんが、
今回は、テルモから販売されているサプリメント「アナフォート」、鍼灸、ホメオパシーなどを使って
猫のペインコントロールについて検討いたしました。